

認知症連携時に欲しい情報

- 性格
 - ・好きなこと嫌いな事
 - ・家と外との違い
- 経済力
- 思い
 - ・今後の生活の希望
 - ・認知症の自覚があるか？
- 地域との関係
 - ・近所づきあい、地域との関係
 - ・地域に話をしてもいいか？
- 役割
 - ・家庭内での地位や役割
- 住環境
 - ・立地、段差・住宅改修の有無

本人の情報

- 生活能力
 - ・一人暮らし？支援者は？
 - ・出来ること、出来ないこと
 - ・家事など生活がどの程度出来るか？
 - ・食生活の状況
 - ・火の管理
 - ・睡眠状況
 - ・トイレの回数
- 活動能力
 - ・活動範囲、徘徊の有無
 - ・外出状況
 - ・自動車の有無、免許
- 生活歴
 - ・趣味、楽しみ
 - ・職歴、出身地

家族の情報

- 家族構成
 - ・支援の度合い
 - ・キーパーソンは？
 - ・どの程度支援しているか？
 - ・他に頼れる人はいるか？
- 本人との関係性
 - ・本人との仲、親族との関係
- 接し方
 - ・気を付けている事
 - ・今上手くいっている対応方法
- 家族の思い
 - ・今後の生活への希望
 - ・認知症に対する理解度

医療情報

- ・薬の管理を誰がどのようにしているか？
- ・アレルギー
- ・受診動機
- ・専門医の診断の有無
- ・基礎疾患・既往歴
- ・認知症の有無、種類、重症度
- ・認知症周辺症状の状況（特に暴力や徘徊などの緊急性の高い症状）

介護保険の情報

- ・介護保険の有無
- ・介護の必要度

取組の情報

- 他機関の取組
 - ・どこどの機関がどのような取り組みをしているか
- 支援者チームの責任者、要
- 支援の目標は？

認知症情報を連携する方法

◎在宅医療連携ガイドを利用して、相手の相談しやすい時間に電話やメールで連絡する

◎支援の約束事を作る

- ・ささいなことでも必ず連絡すること
- ・支援チームのリーダーと連絡方法を明確にすること 等々

◎Z連携を臨機応変に利用する

- ・情報が登録されていると、いつでも確認できる
- ・一度入力した情報は一部のみ変更して再作成できる

◎新見版情報共有書に合わせた形で、チェック方式で認知症の情報がわかる様式を作る

◎4月から始まるかかりつけ薬剤師制度を利用する

◎新見市が作成された「医療介護れんらく帳」を活用する
※お薬手帳、保険証入れ、連絡帳等がセットになったもの

◎地域の取り組みやインフォーマルなサービスを理解し、つながる

- ・郵便局の見守りサービス
- ・新見見守りネット
- ・各配食サービス
- ・民生委員、愛育委員、福祉委員の取組等々

専門職は忙しそう
で、連絡し辛いなあ。

書類を作るの
が大変だなあ。

新見版情報共有書
うちにはこないなあ。



平成 27 年度認知症ケアパス普及研修会グループワークまとめ①

住民向け認知症ケアパス「認知症になっても安心リーフレット」の普及啓発方法

渡す相手

- ・ 早期に発見するには、より若い人への普及が大切

⇒健康な人、支援の人に

- ・ 学校等で紹介して、小さいうちから身近なものにしていく

置き場所

- ・ 病院の窓口に置いてもらおう
- ・ 市役所、病院などに置く。絵やイラストでアピール
- ・ 歯科医院の待合室においたり、ポスターで貼る
- ・ 公民館
- ・ 待ち時間のある所：バスの停留所、駅

渡し方

- ・ 本人、家族に直接渡すと怒られることがある
- ・ 福祉用具のカタログなどと一緒に、直接すぎると×
- ・ 説明をしないとわからないので、説明しながら教える。ケアマネ、愛育委員等
- ・ 劇等の身振り手振りも必要？ロコミ、i チャンネル
- ・ 市報と一緒に配る（捨ててしまわないか心配だけど…）
- ・ 簡易なチェック項目を見てもらい、次にこのリーフレットを説明する
- ・ 色々な職種が次につなげていく 地域包括 ケアマネ
- ・ 受診の前に地域包括支援センターに連絡してもらうようにする
- ・ 市の取り組みも合わせて知らせる
- ・ 認知症の勉強会、民生委員の集まり
- ・ 健康教室やサロン
- ・ 何でも相談会
- ・ 福祉連絡会議で紹介する
- ・ ポイントを大きく書いて、連絡先をかく
- ・ 事前に知識を入れてあげる

⇒地域の人への勉強会を開催する